

NPO 法人 たすけあいの会 ふれあいネットまつど 会報 第 41 号

え

が

お

発行所: 松戸市東平賀 7 番地の 2 電話: 047-346-0866 E-mail: fnm2011@r4.dion.ne.jp

# ふれあい敬老会開催



会員が集まり高齢者の  
健康長寿を祝いました

ふれあいネットまつど主催の敬老会は、10月22日(土) 小金原市民センターにて開かれました。当日は80歳以上の会員を対象に、5人が出席(ボランティアスタッフ21名出席)し、会員が準備した手作りのお料理やスタッフの踊り、クイズなどを楽しまれました。健康長寿を祝いました。今回の開催は「たすけあいの会ふれあいネットまつど」の高年齢者の福祉のあり方を考え直すいい機会でもあり、会員の多くが計画段階から参加し実施したものです。開会式では久しぶりに公式の場に出席された、島田喜七代表から「今日は、みなさん楽しんでください」と挨拶。乾杯後、介護現場で働く会員から「リハビリ体操」の指導、そしてこの日のために練習を重ねた踊りが披露され会場の市民センターから歓声がこぼれるほどでした。恒例となったふれあいクイズ、パティシエ会員からのケーキやお茶などが振る舞われました。お開きでは敬老会を代表して飯島信一さんから「また来年も元気で集まりましょう」と、ふれあい敬老会を締めくくりました。

## 自由に生きていく力強さを 感じる

「たすけあいの会ふれあいネット  
まつど」の80歳以上の会員は現  
在46名(会員シェア26%)長  
寿の構成は、80歳〜83歳(1  
7名)84歳〜86歳(10名)  
87歳〜90歳(12名)90歳  
〜95歳(6名)95歳以上(2名)  
最高年齢は男性(96歳)、女性  
(95歳)。**好きな食べ物**は?  
の間に魚貝類、野菜、肉類、豆  
腐、お酒、アイスクリーム、果物、  
お酒、ウナギ、カレーライス、コ  
ーヒーと様々。**健康の秘訣**は、

気合い、早寝早起き、前向き思考、  
よく食べ良く寝る、規則正しい時  
間で過ごす、こまかいことにこだ  
わらない、よく動く。**趣味**では  
小説を読む、手毬作り、手芸、ラ  
ジオを聴く、国文学、短歌、童謡  
や抒情歌を唄う、習字、園芸、俳  
句、料理など多彩。特筆すること  
は健康の秘訣として自分自身に気  
力や気合いを入れる、前向きに、  
などと答えられ、改めて生きてい  
く力強さを感じる結果となりました。  
**食べ物**では、健康食品といわ  
れる食材に拘らず自由に、お好き  
なものを召し上がり、趣味を楽し  
むなどして過ごされているご様子  
が伺われました。

## 赤いチャンチャンコ

昔は暦が一巡する60年を生き抜  
くことは大変なことでしたが、今  
では元気に働いている人がほとん  
どです。平成22年度の日本の総  
人口は1億2806万人、65歳  
以上が2968万人(5人に一人  
の割合)、75歳以上は1430  
万人(11.2%)と超高年齢社  
会を目前としております。暦が一  
巡した(赤ちゃんに戻る)お祝い  
の赤いチャンチャンコなどの、お  
祝いの形もこれから変わってくる  
かもしれないですね。写真は敬老  
会に「参加していただいた、左上か  
ら、西村知雄さん(山口県生まれ

で、フグとお酒が大好き)、飯島  
信一さん(今でも時々カラオケを  
楽しんでます)、大條アキエさ  
ん(コーヒーが大好きと話される)  
安藤敬久さん(健康の秘訣は良く  
寝ることと、教えていただきました)  
、布川幸市さん(書きの席次  
表をほめていただいた)みなさん  
いつまでもお元気でお過ごしくだ  
さい。



## 車いすに乗って感じた、街・人

西村泰久 1964 生 うお座



2010年10月入会

両国で生まれ埼玉の越谷で育ち、20歳で松戸に移り住む、現在は車いす生活ながらも積極的に活動されている会員の西村さん、筋ジストロフィーと向かいながらも、つねに前へ前へと目標を持ち成長する人生でありたいと語る。

### 仕事

子供のころは太っていて、両国で生まれたので相撲部屋に入れてしまおうかと言われていたが、丸の内にある結婚式場で働きはじめました、職種は母がお菓子を作るのが好きだったので、子供の頃から夢だった洋菓子職人です。当時は単なるケーキ職人で現在流行の「パティシェ」などかっこ良くはありませんでした。

仕事中的ことでした、結婚式場なのでお菓子を作る量も多く、重い材料を下から持ち上げようとしても持ち上げることができず、おかしいと思い会社指定の病院に行き、検査したところ筋ジストロフィーの病名をを告げられました、その後少しずつ歩くことが困難になり、担当医から車いすを薦められました、頑張って歩いて通勤をしていました。しかし、現実はそんなに甘いものではありませんでした。通勤途中で何度も転び通りすがりの多くの人達に度々たすけて頂きましたが、最後は杖を持ち装具を付けて靴も改造したものの、電車での通勤は 25 年で終止符を打つこととなってしまいました。

### 車いす

車いすに乗る決意をして、装具の見直しと電動車いすの申請のため病院に入院しました。電動車いすが来てから一番困ったのが電動車いすの置き場でした、外に置くわけにもいかず、玄関にも置けず、部屋に入れることを考えました。問題は土足と一緒にになってしまうので、母がソファのカバーを見つけてそれを利用することにしました。ダイニングと部屋に二枚カバーを敷いてベランダの手前の部屋の部屋に置くことができました。電動車いすの運転では、バックが上手く出来ずに、エレベーターに乗るのも大変でした。電動車いすに慣れてからは、電車で銀座や浅草に出かけました。以前は買い物にも行けなかったのが、買い物にも行けるようになり電動車いすに乗るのが楽しくなりました。

### バリアフリー

今は、バリアフリー化も進み電車に乗車するときなども駅の職員さんが親切にスロープで乗せて頂き、レジャー施設やショッピングモール、駅などバリアフリー化により多目的トイレも増えて利用しやすくなりました、それでも障害者によっては大変な思いをしている人もいますので更に改良が必要だと思います。都市近郊ではバリアフリーが進んできていますが、都心から少し離れてしまうと駅にエレベーターが無かったり、歩道が無かったり道がガタガタだったりして大変な人がたくさんいます。今後バリアフリーが進んで行くことを願っていますが、自らも発信して訴えていくつもりです。しかし、なんでもやってくれるからと言って、障害者が当たり前になってしまったらおしまいです。いつまでも感謝の気持ちを忘れずに生きていくことが大事です。その心こそ大切だと思います。



### ボランティア活動 電動車いすに乗って、何かを

しようかと思いました。松戸市の障害者福祉センターでいろいろな講座を知り陶芸、墨絵、カラオケそれに車イスダンスにも行きました。車いすダンスでは、昨年の千葉国体に出場することが出来ました。また、車いすダンスでは「ふれあいネットまつど」の代表、島田喜七さんと出会うことができました、島田さんのお話をいろいろ聞き驚き心から力を頂きました、そして私も人の役に立つことをしようと思いました。更にそこから紹介していただいたのがバリアフリーまつど市民会議や「だっくす」です。バリアフリー市民会議では、車いすのパティシェから学ぶという企画で、私が講師で親子ふれあい体験というお菓子教室を開催させて頂き、参加されたみなさんに大変喜んでいただきました、子供からは生活のことなどを質問を受けていい経験になりました。その後、必死で覚えたバルーンアートは多くの子供たちに喜んでいただいています。NPO-法人だっくすでは、重度の障害を持ちながら一生懸命に生きている姿に感動したり、障害施設では今まで家に閉じこもりがちだった二人の方に電動車いすを薦めたところ大変喜んでいただきました。だっくすから紹介していただいた在宅支援センター、他にも、NPO 法人子どもつと松戸、シュガーパイン介護ステーションさん、本当に感謝しています。車いすに乗るようになり周りが良くみえるようになりました。私自身も、障害者の方々や多くの人達に勇気を与えられるようこれからも頑張っていきます。



# 画期的なNPO法の改正・新寄付税制が実現

1998年にNPO法(特定非営利活動促進法)が施行されてから13年目の今年、制度創設後初となる抜本改正が実現しました。改正NPO法は2012年4月1日に施行されます。この改正とセットの新寄付税制が6月22日に成立、6月30日に施行されました。税制上優遇される認定NPOになるための要件が緩和され、国税庁からの認定が取りやすくなりました。ふれあいネットまつど理事会ではこの改正を歓迎し、認定NPO法人取得の申請を行うことを決定。12月申請に向けて準備を進めています。ここでは、改正の2つポイントを解説します。

## NPOへの寄付金の最大約半額が、税金の還付で寄付者へ戻ります!

### 新ルール1

◎ 個人が認定NPOへ寄付した場合・・・所得税に税額控除方式(所得に関わらず原則的に同じ)が導入されました。控除割合は、寄付金の40%(住民税10%と合わせて最大50%) 従来は、所得税控除方式のため、所得が少ないと効果が薄くなっていました。

⇒ (寄付金額 -2千円) × 40%を所得税額から差し引くことができます。

● 1万円の寄付で、3,200円減税 ● 10万円の寄付で39,200円減税

⇒ 地方税での税額控除「(寄付金額 -2千円) × 10%(県税4%・市税6%)と合わせて、最大で(寄付金額 -2千円) × 50%が減税されることになる。

### 新ルール2

## 国税庁からの認定が取りやすくなりました 3,000円以上寄付してくれる人が100人以上

◎ 認定NPO法人となるための9要件の一つである「パブリック・サポート・テスト(PST)」に、「年3千円以上の寄付者が年平均100人以上」という基準が新しく追加。従来の「収入の内、寄付金が20%以上」という基準はハードルが高いものでした。

● 寄付定義・・・ 個人だけでなく法人・団体も含む。ただし、寄付者の名前・住が必要。同一生計者合算、役員は除外

## 認定NPO法人制度とは・・・

NPO法人の内、一定の要件を満たしていると、国税庁長官が認めた法人に対して、様々な税金の優遇を与えて、NPO法人の活動を税制面で応援する制度です(2012年4月からは所轄庁である都道府県が認定を行うようになります)。法改正前は、要件のハードルが高く、4万以上あるNPO法人のうち、認定NPO法人は、200に止まっていました。

### ◎ 認定NPO法人が受けられる税制上の優遇措置

- ・ 寄付した個人は、寄付金控除を受けられます。
- ・ 法人は、損金算入限度額の枠が拡大されます。
- ・ 相続人は寄付した相続財産が非課税になります。
- ・ 認定NPO法人自身は、みなし寄付金制度を利用できます

### ◎ その他のNPO法改正内容

- ・ 仮認定制度の導入
- ・ 認定・認証も身近な都道府県・政令市に。
- ・ NPOの活動分野に3分野を追加。
- ・ 会計基準関連の改正(「活動計算書」へ変更)
- ・ 認証など各種手続きを簡単に。
- ・ 情報公開の強化

## ふれあいネットまつど 12月申請へ

### 寄付者3千円、100人以上の要件をクリア

ふれあいネットまつどでは、10月1日に開催した第5回理事会で、認定NPO法人の申請を行うことを決定。現在、「千葉県県民活動促進事業・認定特定非営利活動法人取得促進事業」の指定を受け、12月中に申請するため準備を進めています。

# 事務局だよ

## ボランティア説明会を開催

7月

7月30日(土)、小金原市民センターで、2011年度第1回ボランティア説明会

を開催しました。松戸市広報と配布したチラシを見て、市民4人が参加。石瀬満理事の挨拶のあと、スライドでふれあいネットまつどの紹介。活動事例として、理事の中原さん・森田(卜)さん、林義雄さんが入会の動機・現在携わっている活動それぞれお話しをし、参加者ごとに分かれて疑問や質問を先輩会員が答える形で行われ1名の方が入会されました。

## 夏のおでかけ活動

17人が西部防災センターへ

8月

防災の日を前にした、8月27日(土)、「夏休み郊外学習・災害を体験してみましよう」と題した「おでかけ活動」が、千葉県西部防災センターを会場に行われました。この行事は、「チームたすけあい・おでかけグループ(担当:石原順二理事)」が主催し、ケアステーションのヘルパー研修会も兼ねて



熱中症予防チラシを読む三浦さんと、説明に訪問した森田さん(左)

環境省呼びかけの同プロジェクトに参加。ふれあいだより特別号を発行して会員へ注意を喚起しました。ふれあいネットまつどの取組の様子が、同プロジェクトホームページで紹介されました。

## 熱中症予防

## 「声かけプロジェクト」実施

行われたもの。ヘルパーさんを中心に、車いすの西村泰久さん、大井俊敬さん、大場美明さんから17名の会員が参加しました。研修は、90分コース。震度7の体験・風速30以上の暴風雨の体験・消火器を使って消火体験などをインストラクターの指導で体験学習を行いました。その後、会議室を借りて、森田トミエさん(理事・サービスマン提供責任者)を講師に「熱中症予防」の学習を行いました。

## 第2回新入会員研修会開催

9月

9月20日(火)、2011年度第2回目の新入正会員研修会を開催。8月〜9月に入会した4人の会員が参加しました。この4人の方を加えて4月から半年間の新入会員は8人(女性5人男性3人)。この中には、東日本震災支援活動への参加をきっかけに入会された女性が2名います。

## 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」助成が決定

9月15日、社会福祉法人中央共同募金会が実施する、NPOが取り組む東日本震災支援活動に対する助成金について、ふれあいネットまつどの申請した内容が決定しました。5月から実施してきた宮城県東松島市の避難所・仮設住宅でのオープンカフェ「パソル喫茶」開催活動が評価され、2012年3月までの活動計画に対して助成されます。この助成決定を受け、第5回理事会では、会員のみなさん、松戸市民のみなさんと協力して東松島市を対象に、仮設住宅での孤立防止と地域コミュニティ再生のため、パソル喫茶活動を強化してすすめることを決定しました。

### 医療法人社団弥生会

### 旭神経内科リハビリテーション病院

<http://www.yayoikai.or.jp>

松戸市栗ヶ沢 789-10 TEL047-385-5566

受診・入院等のお問い合わせは相談室までご連絡ください



併設施設:介護老人保健施設/通所介護/訪問看護/訪問介護/居宅支援事業所/小金原地区在宅介護支援センター

介護保険工事件数が5,000件を超えました。この経験により、最適な改修プランや用具レンタル用具販売をトータルでご提案致します。

介護住宅リフォームの専門店  
福祉用具レンタル・販売

## (有)ジェイエム建築企画

本店/〒271-0074 千葉県松戸市緑ヶ丘2-257-2  
TEL:047-330-0022 FAX:047-330-0027  
柏事務所/〒277-0852 千葉県柏市旭町7-1-10-202  
TEL:04-7141-6267 FAX:04-7141-6268

# 私が育った故郷の秋

友山 邦雄

2000年4月入会



羽生

「しーずかな さあとのあき♪」今年25歳になる娘が2歳の頃、その頃住んでいた郵政宿舍の窓越しに、中秋の名月を見上げながら妻と一緒によく口ずさんでいたのが童謡「里の秋」です。その月を一緒に眺めながら、私は自分が幼少期を過ごした田園地帯、埼玉県羽生市にあった我が家（借家の一軒家でした）で行った「お月見」のことを思い出していました。

半世紀ほど前！のその頃は夜になると闇が深く、月の光が煌々として縁側に飾られたお供えの月見団子や栗、サツマイモ、すすき等を明るく照らし出しています。

した。子供心にも、大きくてまん丸で明るい光の「お月様」を眺めるのは本当に清々しい気持ちでした。おまけにお餅をついているウサギの姿まで楽しめるのですから、当時の私はお月見の日を心待ちにし、当日はワクワクしながら夜が来るのを待ちました。もちろんそのワクワクの中には、焼いてお醤油につけたりそのまま砂糖をまぶして食べた、月見団子の味わいも混ざっていました。夜も更けて近所の子供たちがお月見のお供え物を盗みに来るのを待つて月見の行事が終わりました。これは、子供を月の使者と見立てた風習だそうですが、残念ながら小学3年生の2学期を終えて東京の江戸川区に引越した私は「お供え盗賊団」に加わることが出来ませんでした。

沢辺 和子 2002年11月入会



筑波

私は筑波山の麓で生まれました。山が秋色に染まり稲穂が頭を垂れる頃、たいていは十月十日の体育の日の子供達の待ちに待った運動会がありました。運動会には普段忙しい父母達も海苔巻やお稲荷さん、煮しめ

などを作り、家の庭で採れた柿やザクロを持って会場に集います。昼食の時間には子供を囲んで話が弾みます。親子の楽しいひと時です。男の子の中にはカラスウリの実を潰しふくらはぎになすりつけて走っていました。そうすることによって速く走れるのだそうです。

小学校も低学年の当時の記念写真を見ると接ぎの当たったモンペ姿で下駄を履いたオカッパ頭が写っています。なんにもなかった時代、子供達はのびのびしていました。

高学年になると子供達の間で自転車に乗るのが流行りました。親の自転車を持ち出しペダルにまだ足の届かない子供達は車体の三角の部分に片足を差し入れて体を斜めにして器用にペダルを漕ぐのです。運動大嫌いで家の中で本を読んでいるような私には、とてもとても怖くて、自転車に触ることもできません。上手に三角乗りをしている仲間達を見ていただけでした。みかねた父が子供用の赤い自転車を買ってくれて、やっと自転車に乗ることができました。温暖でめつたに雪は降りませんが、珍しく雪になると学習時間を変更してクラス対抗雪合戦をしたものです。家を空けるときも鍵など必要なくらい平和でのんびりした日々でした。今自転車に乗ることが出来るのもあの赤い自転車のお陰とと思っています。

## 東平賀7番地 編集局

宮城県亘理町の郷土料理「はらこ飯」を食べた、サケの煮汁で炊いたお米の香り、醤油漬けたイクラの色が食欲をそそる▲このところ突き出るばかりのお腹「これも食欲の秋のせい」と聞き直る▲サケは産卵・受精のため海洋を回遊して、生まれた川に戻るといわれる▲3・11を知っているのか、店先にはコスモスが揺れるいつもの秋、はらこ飯を愛しく食う▲松島海岸の魚市場で名物、生牡蠣を賞味した、何年ぶりだろうか、生牡蠣は食べないと決めていたのに▲これも復興支援と心で決めて食べる、磯の香りがツーンと口の中に広がる・旨い！本場の松島を味で知ったのははじめてである▲そして、スポーツの秋、サッカー、野球、バレーボール・スケート・どれも片時も目を離せない白熱したゲームをテキパキと審判がさばっていく▲さばくと言えば、「ここにおおす方をどなたと心得える！あのTV「水戸黄門」が42年間の幕を閉じる、毎週笑顔で楽しみにしていた人々からは、復活に期待を寄せる人は多いのではないだろうか▲我が敬老会の参加者の笑顔、人生っていいなと思う。

編集局 赤とんぼ